

1 ソフトボール 競技

〔チーム編成〕

各地区1チームまでの参加とする。

監督1人 コーチ2人 選手16人

〔競技方法〕

- (1) 2ブロック制のトーナメント戦とする。
- (2) 試合は5回とし、試合時間が60分を越えたら新しいイニングに入らず、同点の場合は最終ナインのトスにより決する。なお、3回終了後10点以上の差があればコールドゲームとする。
- (3) 試合時間内であれば、延長は1イニングのタイブレーカーを実施する。それでも試合が決しない場合は最終ナインのトスにより決する。
ただし、決勝戦は時間制限を設けず5回まで行う。5回終了時に同点の場合は、1イニングのみタイブレーカー（※1）を実施する。それでも試合が決しない場合は最終ナインのトスにより決する。
- (4) 一塁側のファウル地域からプレーが行われ、守備者がオレンジベースを使用しているときは、打者走者はフェア地域を走り、白ベースを使用することができる。
- (5) 投球動作に入るときは、身体の前または横で球を両手で持ち、2秒以上5秒以内 身体を完全に停止しなければならない。
- (6) 投手・捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、あるいは二死後、投手・捕手が出塁し、走者となったとき、投手・捕手の代わりにテンポラリーランナー（※2）を使用することができる。
なお、テンポラリーランナーを使用する時は、監督が球審へ通告する。
- (7) 背番号は、監督30番、コーチ31番、32番、主将は10番とし、それ以外の1～99で選手の番号を指定し必ず着用する。
- (8) 使用グラウンドにより特別グラウンドルールを定め適用する。
- (9) その他については2025 オフィシャルソフトボールルールに基づき行うものとする。
- (10) コーチスボックスに入るときは、必ずヘルメットを着用するものとする。

〔申合せ事項〕

- (1) 金属スパイクの使用は禁止する。
- (2) 当該試合は攻撃側のチームが得点を記入する。
- (3) ファールボールの回収はそれぞれのベンチ側で行う。
- (4) 故意にヘルメットを脱いだときはアウトになる。
- (5) 胸にある番号は外さなくても構わない。
- (6) 空タッチについて1度目は注意、2度目は退場とする。
- (7) 2試合目以降の試合前練習は原則行わないものとする。
- (8) 試合開始時間30分前までに選手全員集合すること。選手が不足の時は不戦敗とする。
- (9) オーダー表は登録メンバー全員を記入し、4部を主審に提出する。
(試合時間30分前又は前試合3回終了時点に提出)
- (10) 試合中、抗議できるのは監督だけであるものとする。

- (11) チームのメンバーは声を出したり、動作により投球のコースを教えたりしてはならないものとする。
- (12) ホームランライン及びカラーコーンを設置し、フェア飛球がホームランラインを越えた場合はホームランとする。また、フェアグラウンドに落ちた打球が、ワンバウンドでホームランラインを越えた場合は、エンタイトルルツーベース（※3）とする。なお、ラインを越えたボールは攻撃側の選手が取りに行くこと。
- (13) 投手板から本塁までの距離は46 フィート（14.02m）とし、ピッチャーが女子の場合も変更しないものとする。

※1 「タイプレーカー」とは

無死走者2 塁を設定して試合を継続する方法。その2 塁の走者は前の回の最後に打撃を完了したものとし、打者は前回から引き続く正位打者（正しい打順の打者）とする。

※2 「テンポラリーランナー」とは

投手・捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、あるいは二死後、投手・捕手が出塁し、走者となったとき、投手・捕手の代わりに走者となる選手のこと。テンポラリーランナーと交代させるかどうかかは、攻撃側チームの自由で、必ず交代させなければならないというものではない。

テンポラリーランナーを使用するときは、塁上の走者以外の選手で、打順が最後に回ってくる者をテンポラリーランナーとする。

テンポラリーランナーの交代は、テンポラリーランナーがケガなどをした場合に限られ、それ以外は認めない。ケガなどにより交代する場合は、「控えの選手」と交代し、「通常の選手交代」扱いとなる。

※3 「エンタイトルルツーベース」とは

打者・走者に2 つ先の塁に進む権利（安全進塁権）を与えること。

2 ソフトバレーボール競技

〔部門〕

次の4つの部門を設ける。

- (1) フリーの部（年齢制限はなく男女各2人が常時出場）
- (2) トリム40の部（40歳以上の男女各2人が常時出場）
- (3) トリム50の部（50歳以上の男女各2人が常時出場）
- (4) トリム60の部（60歳以上の男女各2人が常時出場）※オープン部門
- (5) レディースの部（年齢制限はなし）

〔チーム編成〕

- (1) チームは、選手8人と監督1人の9人（監督が選手を兼ねる場合は8人）まで登録できる。
ただし、相互審判（主審1人・副審1人・線審2人・得点掲示2人）で行うため、6人以上のメンバー登録が望ましい。
- (2) 各部門とも1地区各1チームの参加とする。
- (3) 1人1部門の登録とする。

〔競技方法〕

- (1) 予選はリーグ戦とし、各リーグ1位による決勝トーナメント戦又は決勝リーグ戦を行う。
- (2) コートはバドミントンダブルス用コートの外側のラインを利用する。
- (3) 試合球は公認球とする。
- (4) ネットの高さは2mとする。
- (5) ラリーポイント制とする。
- (6) 相互審判とする。

〔申合せ事項〕

- (1) 試合は3セットマッチとする。
- (2) 相互審判は同一コートの試合を行っていないチームが、主審1人・副審1人・線審2人・得点掲示2人の計6人を選任して行う。
なお、チームメンバーが6人に満たない場合は、地区役員等の協力を得て、相互審判を行うこととする。
- (3) ゼッケン（背番号のついたユニフォームでも可）については各チームで用意する。
（ユニフォームが揃わない場合は、同一チーム内にユニフォームとビブスが混在していても構わない。ただし、同じ番号を使用しないこと。）
- (4) 試合前のコート練習は合同で2分間とする。
- (5) 予選リーグの順位決定は勝敗とし、決しない場合はセット率、それでも決しない場合はポイント率で決定する。
- (6) トリム60の部は、オープン部門とする。

3 バドミントン競技

〔チーム編成〕

各地区1チームまでの参加とする。

監督1人

選手 男子5人 女子5人

補欠 8人（男子4人・女子4人） 計19人

1人1組の登録とし、第1試合開始時にチームとして成立していれば、以降の試合は成立する。

〔競技方法〕

- (1) シャトルは公認シャトルとする。
- (2) 各組ともダブルスとする。
- (3) 予選リーグ・決勝トーナメント戦は1ゲームラリーポイント15点3ゲームマッチとしセッティング無し。ゲーム中のインターバルは無しとする（ただし、3ゲーム目は有り）。3ゲーム目のチェンジエンドは8点とする。
- (4) 予選はリーグ戦とし、決勝はトーナメント戦とする。（3位決定戦を行う。）
- (5) 予選リーグは全試合を行い、決勝トーナメント戦はどちらか3勝した時点で終了とし、2コート以上を使用した平行試合の場合も同様とする。
- (6) 壮年は男女とも40歳以上とする。
- (7) ラインジャッジ及び得点係は試合チーム相互で行う。
- (8) スコアを数える際は、得点板を用いる。
- (9) 試合順序

壮年女子 → 男子 → 混合 → 女子 → 壮年男子

〔申合せ事項〕

- (1) 選手が集まらない場合に限り、男子の枠に女子選手が出場してもかまわない。ただし、相手チームの許可を得ること。

4 卓球競技

〔チーム編成〕

各地区1チームまでの参加とする。

監督1人

選手 男子3人 女子3人

補欠 4人（男子2人・女子2人） 計11人

〔競技方法〕

- (1) 原則として予選はリーグ戦とし、決勝はトーナメント戦とする。
- (2) 1セット11点先取、5セットマッチ、3セット先取とする。
- (3) 予選リーグ戦は原則5試合全て行い、決勝トーナメント戦はどちらかが3勝した時点で終了とし、2コート以上を使用した平行試合の場合も同様とする。
予選リーグで勝敗が並んだ場合、得失点差で順位を決定する。
- (4) 試合球は白色40mm硬球とする。(3スタープレミアムクリーン)
- (5) ミックスダブルスに参加した選手は、その試合に限りシングルスに出場できない。
- (6) 審判はチーム相互で行う。
- (7) 壮年は男女とも40歳以上とする。
- (8) ミックスダブルスにおいて、2人の年齢の合計は80歳以上とする。
- (9) 試合順序
壮年女子 → 壮年男子 → ミックスダブルス → 女子 → 男子

〔申合せ事項〕

- (1) ゼッケンは上に地区名、下に姓を記入し背中に付ける。
- (2) ユニフォームの色は問わない(ただし、白色は不可)。

5 ターゲット・バードゴルフ競技

〔チーム編成〕

1 チーム4人以上5人以下の男女混成の競技者で構成し、各地区3チームまでの参加とする。

〔競技方法〕

- (1) 18ホール、パー72のスクラッチ競技とする。
- (2) 競技規則は、以下による。
 - ア 全日本TBG協会競技規則
 - イ 厚木市ターゲット・バードゴルフ競技規則
 - ウ 申合せ事項
- (3) スタートは、ショットガン方式とし合図とともに一斉にスタートする。
- (4) スタート2ホールは練習とし、3ホール目から競技を開始する。
- (5) 競技終了後、アテストを行い各組でまとめて受付へ提出する。
- (6) 順位はチームごとに、女性1人以上を含めた上位4人のトータルスコアで決定する。

〔申合せ事項〕

- (1) コースの幅は原則一律2.5mとする。
- (2) ティーショット位置は、RT、FTの2か所とする。
 - ア レギュラーティー (RT)：男子
 - イ フロントティー (FT)：女子
- (3) ティーショット位置を間違えてショットした場合、正しいティーショット位置に戻って無罰でショットをやり直すことができる。但し、ホールアウトしてしまった場合は、2打罰とする。
- (4) ショットマット及びクラブは各自選手が持参したもの、もしくは主催者が用意したものを使用する。ただし、競技開始前に各組で相互に不正がないことを確認すること。
- (5) 試合球は、主催者が用意したものを使用する。
- (6) スタートマットは設置せず、ショットマットを使用する。
- (7) 順位の決定において地区のグロススコアが同じ場合、最も良いスコアを出した人のいる地区が上位とする。
- (8) それでも同スコアな場合は、順次下位者の比較で順位を決定する。
- (9) 競技は、危険を伴うこともあるので最小限のエチケット・マナーを事前に身に着けて参加すること。
- (10) 開会前の事前練習はしても構わないが、場所や時間等については役員の指示に従うこと。
- (11) エチケットリーダーに関する取り決め事項
 - ア 当日、競技前に1組に1人のエチケットリーダーを選出する。
 - イ エチケットリーダーは、安全なプレーと規則の順守で同伴競技者の模範となるよう心がける。
 - ウ エチケットリーダーは、同伴競技者のプレーの安全確保及び規則の順守並びにエチケット・マナーに常に目を配り、必要に応じて適切な指導をすること。
 - エ エチケットリーダーは、プレー終了後の成績集計及びアテストについての補助及び提出を行うこと。

6 グラウンド・ゴルフ競技

〔チーム編成〕

1 チーム4人以上5人以下の男女混成の競技者で構成し、各地区2チームまでの参加とする。

〔競技方法〕

- (1) 競技は団体戦で実施する。
- (2) 日本グラウンド・ゴルフ協会ルール 2025 版及び厚木市民スポーツ大会グラウンド・ゴルフローカルルールに基づき行う。
- (3) 順位はチームごとに女性1人以上を含めた上位4人の総合計打数が少ないチームが上位とする。同スコアの場合は最小打数の多いチームを上位とし、3打までが同じの場合は年齢の合計が多いチームを上位とする。
- (4) ホールは1ラウンド8ホールを4コース設置し、計4ラウンド32ホール回るものとする。
- (5) スタートは、ショットガン方式（複数のチームがそれぞれ違うホールから、同時にスタートする方式）とする。
- (6) 打順はローテーションで行う。ボールからホールポストまでの距離に関わらず、1番目の打順の人から順番に打つ。2打目、3打目も同じ打順で打つ。次ホールのスタートでは、前のホールで2番目の打順の人が1番目へ繰り上がり最初に打つ。他の人も同じ様に打順が1つずつ繰り上がる。前のホールで1番目に打った人は最後の打順となる。
- (7) プレーヤーはトマリになるまでプレーする。
- (8) ゲーム中の審判はプレーヤー自身が行う。判定が困難な場合には、同伴プレーヤーに同意を求めること。
- (9) 第1打が直接ホールポストの中に入った時は“ホールインワン”となり、この場合は合計打数からホールインワン1回につき3打差し引いて計算する。
- (10) 空振りの場合は打数に数えないが、風圧やスタートマット等でボールが動いた場合はもとの位置に戻して打ち直す。
- (11) 1打目の打球がホール手前に止まり、かつ、次のプレーヤーの打球に影響を与えそうなボールは、速やかにマークしてボールを取り上げる。2打目からも、他のプレーヤーの妨げになると思われる場合は、速やかにマークしてボールを取り上げる。
- (12) プレーヤーのボールが他のプレーヤーのボールに当たった場合は、そのまま止まった位置から次の打球を行う。また、当てられた他のプレーヤーのボールは元の位置に戻してから次の打球を行う。
- (13) 記録は厚木市グラウンド・ゴルフ協会が作成する正規の個人スコアカードを使用し、自分のスコアと後ろのプレーヤーのスコアをつける。
- (14) プレーヤー所有のクラブ及びボールは使用可とする。ただし、日本グラウンド・ゴルフ協会が認定したものを使用する。

〔申合せ事項〕

- (1) プレーヤーは、ゲームが円滑に進行するよう自分の打球が終わったら、次のプレーヤーの妨げにならない場所に早く移動し、特にホールポストの近くに立ってスコア記入及びお互いのスコア確認はしない。
- (2) エチケットリーダーは各組から選出し、進行をスムーズに進めると共に各メンバーの打数、地区名、生年月日等を確認し、本部席役員に手渡す。

7 モルック競技(オープン競技)

〔チーム編成〕

1 チーム3人以上5人以下の競技者で構成し、各地区3チームまでの参加とする。

地区で2チーム以上参加する場合の2チーム目及び3チーム目は、次の条件を満たせば18歳未満の者も登録・出場することができる。

- (1) 小学1年生以上で、通常の投擲エリアから投擲可能であること
- (2) 18歳以上(高校生は除く)の者がチームに1人以上いること
- (3) 保護者が同じチームにいるか、申込時に保護者の同意を得ること

1地区の人数は、監督を含め15人までとする。

試合に出場するのは、3人又は4人とし、セット中の交代は認めないものとする。

参加チームが少なく、予選リーグを行うことが難しいと判断される場合、各地区は、上記の参加チーム数、人数の上限を超えて出場できるものとする。

〔競技方法〕

- (1) 予選は3～4チームを1グループとしたリーグ戦とし、決勝はトーナメント戦とする。
- (2) 予選、決勝トーナメントともに2チーム戦で行う。
- (3) 予選は1試合に2セット行い、制限時間を30分とする。
- (4) 予選の投擲順は、1セット目はじゃんけんにより決定し、2セット目はその逆とする。
- (5) 予選の試合開始及び終了は全コート同じ時刻とし、本部が一斉に合図する。
- (6) 制限時間内に試合が終わらない場合は、次のとおりとする。

ア 制限時間内に1セット目は終了し、2セット目途中の場合は、終了の合図があったターンの最後のチームまで投擲し、その時点の得点により2セット目の勝ちチームを決める。

イ 1セット目途中の場合は、終了の合図があったターンの最後のチームまで投擲し、その時点の得点により1セット目の勝ちチームを決め、2セット目は引き分けとする。

ウ 終了時点の得点が同じで勝ちチームが決められない場合は、そのチームは引き分けとする。

- (7) 予選は勝ち数が多いチームを上位とし、勝ち数が同じ場合は引き分け数が多いチームを上位とする。勝ち数、引き分け数ともに同じ場合は、総得点が多いチームを上位とし、総得点も同じで順位を決める必要がある場合は、じゃんけんにより順位を決定する。
- (8) 各グループで1位のチームは決勝トーナメントに進出し、進出するチーム数によっては、各グループ2位のチームの中で成績上位のチームも決勝トーナメントに進出することとする。決勝トーナメントに進出するチーム数は、出場チーム数確定後に決定し、各地区に伝える。
- (9) 決勝トーナメントは、予選と同様に行うが、決勝戦及び3位決定戦については3セットマッチ2セット先取により行い、制限時間なしとする。
- (10) 審判はチーム相互で行う。
- (11) 競技は、日本モルック協会公式ルールガイドブックに基づき行うものとする。

《全体の申合せ事項》

- ・ メンバー変更については過半数を超えない範囲で当日も認める。
- ・ メンバー変更用紙は開会式の 15 分前までに各競技受付に 2 部提出する。
- ・ 開会式の時間については、参加申込みの状況により各競技協会と調整し、第 2 回実行委員会において決定する。